

◇「現の書」についてデータ不備のお知らせとお詫び

P38 下段二十行とP39 上段一行目の間に、以下の欠落がありました。お手にとつて下さった方、大変に申し訳ありません。

本来なら正規に編集した冊子と交換すべきところですが、当方の活動はなにぶんささやかで再版は困難です。

加えて二月十七日のオンラインイベント当日に、既に全体の三分の二は頒布し終えてしまい、回収も難しいと思われます。

頒布済みの方には申し訳ありませんが、ネット上では、このお知らせとお詫びを PDF ファイルで掲載し、イベント時の残りの頒布分には添付、ご希望の方には配布いたします。

何卒お許し下さい。

この度は本当に申し訳ございませんでした。

二十十三年、二月二十日、 木葉日 宇都宮

※欠落分データ

カカシが熱く溜息する。

「ああ、ウミノくんの中だ……俺の」

まるで熱病に浮かされたように男の声がウミノくん、ウミノくんと過去のイルカを呼びだした。それが合図のようにカカシの指は、ずりりと動き始めたからイルカはたまらなかった。七年前に初めてこの男に征服された時もこうやってうわ言のように呼ばれ続けて開かれていったのだ。

「その呼び方、やめてください!」

イルカは耳を塞ぐため両手を持ち上げさえしたけれども、カカシは飄々と、なるほど、と言う。

『ウミノくん』だと、ふつうに好奇心旺盛でふつうにやらしい男の子だから?」

小さく笑ったカカシがグイとより奥を押し上げた時には指の本数が増えている。

「イルカ先生の此処は禁欲中みたいだから、ようくほぐしてあげる」

宣言どおりにカカシの指が本格的に縦横無尽に動き出す。